

横浜ゴムグループは、世界中で 地域とのつながりを深めています

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトをグローバルに展開中

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトは、国内全生産拠点とアメリカ、中国、フィリピン、タイの海外4生産拠点で第1期植樹を完了し、グローバルに展開しています。2009年7月までに国内外合わせて、およそ10万本を植樹しました。

国内外植樹実績

拠点名	第1期植樹実施月(植樹本数)
平塚製造所(含平塚東/ハマタイト工場)	2007年11月(27,000本)
三重工場	2008年5月(5,500本)
長野工場	2008年5月(2,500本)
尾道工場	2008年5月(4,300本)
茨城工場	2008年6月(3,800本)
三島工場	2008年6月(8,800本)
新城工場	2009年5月(12,000本)
ヨコハマタイヤフィリピン INC.	2008年8月(6000本)
杭州横浜輪胎有限公司	2008年11月(12,000本)
ヨコハマタイヤ マニファクチャリング(タイ)	2008年12月(7,200本)
ヨコハマタイヤ コーポレーション	2009年4月(2,300本)



地域の安全や環境、生物多様性を守る「いのちの森」を創生

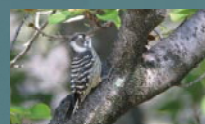
「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトは創業100周年を迎える2017年までに、国内7生産拠点、海外11生産拠点に合計50万本の苗木を植えるプロジェクトです。CO₂吸収はもちろん、環境防災保全林として地域の環境や安全、生物多様性を守る「いのちの森」の創生を目指します。宮脇昭氏(植物生態学者/横浜国立大学名誉教授)の指導の下、潜在自然植生に基づく植樹活動を進め、どんぐり拾いから育苗、土づくりなどすべての作業を従業員と地域の皆さまで行っています。

環境防災保全林をつくる

植樹した苗木は最も大きい樹種で20m以上の大木に成長し、台風、地震などの天災や火災時に被害を最小限に抑える環境防災保全林となり、安全な非難場所として利用できます。また、従業員の憩いの場や地域の皆さまとのコミュニケーションにも活用していきます。

野鳥観測活動を開始

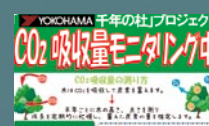
生物多様性の維持に貢献するため、森の再生が生態系に与える影響を把握する一環として、2008年9月から野鳥観測活動を開始しました。平塚製造所に2カ所の定点観測地を設定し、月1回観測しています。



平塚製造所で見られるコゲラ
(2009年3月)

CO₂吸収固定量の把握

木は地球温暖化に直結するCO₂を吸収し、内部に固定する役割があります。このCO₂吸収固定量を把握するため、横浜国立大学の藤原一樹教授の指導の下、平塚製造所に6カ所のサンプル区画(全1,064本)を設け、2009年4月よりモニタリングを開始しました。年2回の調査を約5年継続することで吸収固定量が推定できる見込みです。



CO₂吸収固定量モニタリングの告知看板

